

武蔵村山市 市民アンケート調査結果 (速報版)

調査概要・個人属性

- 満遍なく各世代、居住地から回答を得た

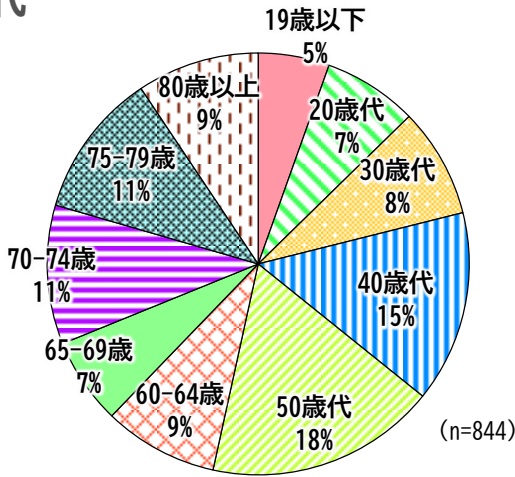
▼調査概要

	市民アンケート
対象者	15歳～85歳の市民から無作為に2000人を抽出
配布方法	郵送配布
配布期間	令和6（2024）年10月19日（土）～11月18日（月）
回収方法	郵送回収及びWEBフォームでの回収
その他	アンケート調査にMMシャトル、むらタク、多摩都市モノレール延伸に関するパンフレットを同梱し、アンケート配布にあわせて市民への周知を図る。

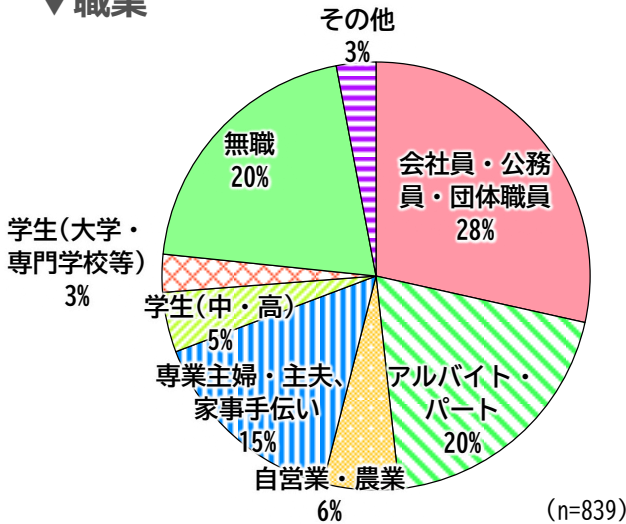
▼配布・回収状況

	配布数	回収	回収率
調査票	-	618	31%
WEB	-	228	11%
合計	2,000	846	42%

▼年代



▼職業



▼居住地

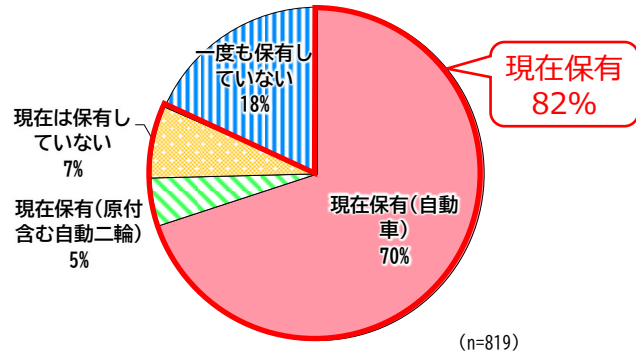
居住地域	回答数	割合
中藤	34	4%
神明	44	5%
中央	41	5%
本町	44	5%
三ツ木	55	7%
岸	34	4%
中原	55	7%
残堀	67	8%
伊奈平	61	7%
横田基地内	0	0%
三ツ藤	76	9%
榎	27	3%
学園	87	10%
大南	174	21%
緑が丘	45	5%
	844	100%

運転免許・自動車等

- 免許保有者は8割、返納予定者はモノレール開業後も含めて1割であるが、65歳以上では3～5割
- 自由に利用できる交通手段として自動車が6割、自転車が4割

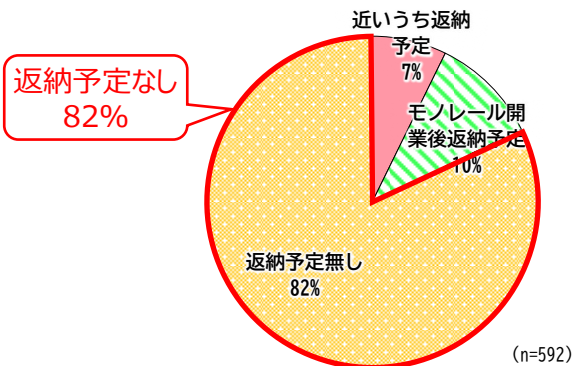
▼自動車運転免許の保有状況

「現在保有」が75%であり、「保有していない」は25%



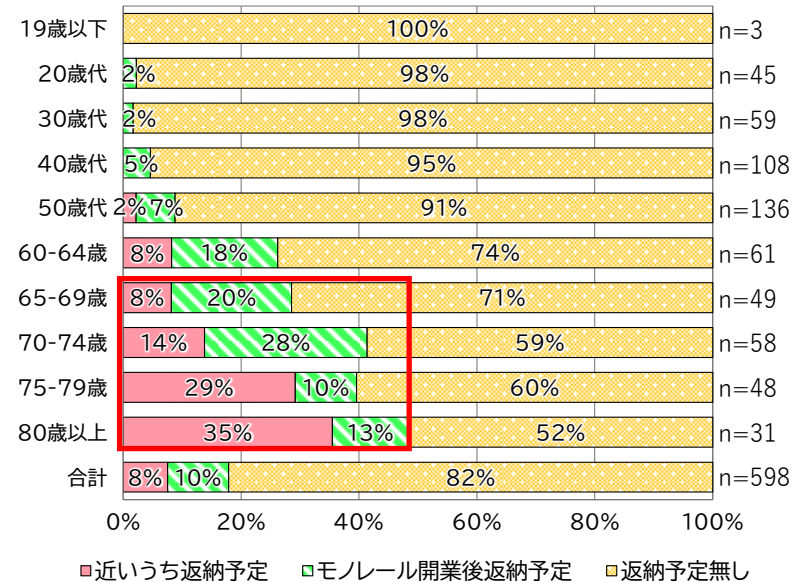
▼自動車運転免許返納の意向

現在運転免許保有している方のうち
「返納予定」は17%、「返納予定なし」は82%



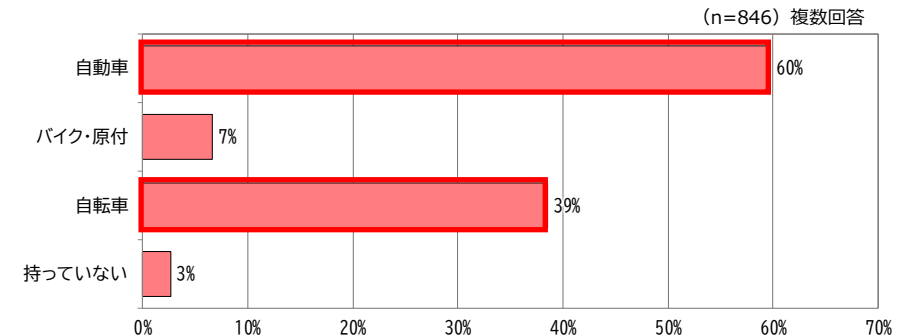
▼免許返納予定者の年齢

「近いうちに返納予定」、「モノレール開業後返納予定」の方は高齢者ほど割合が高く、65歳以上は3～5割程度である



▼自由に利用できる自動車等

「自動車」が60%で最も多く、次いで
「自転車」が39%

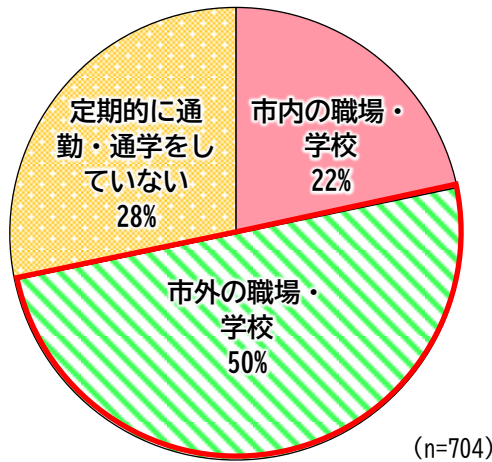


通勤・通学の移動状況

- 市外への通勤通学が5割、交通手段は自転車が4割、自動車（自分で運転・送迎含む）が4割
- 公共交通を利用しない理由は、「他の交通手段の方が便利」、「目的地に行くバス路線がない」、「運行本数が少ない」の順で多いがいずれも約2割

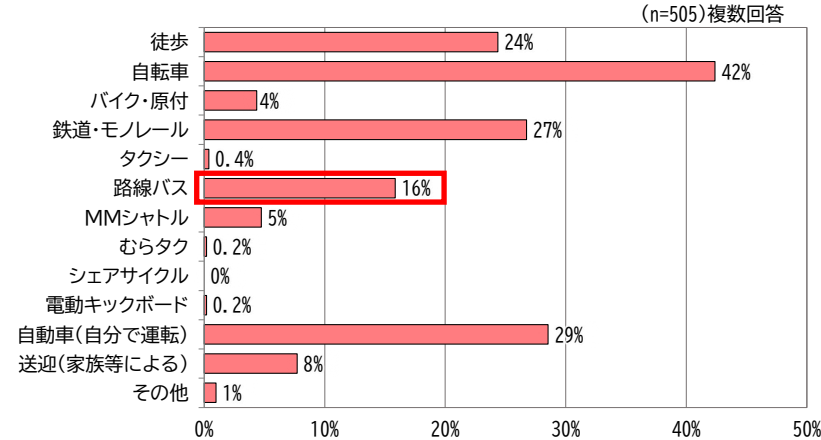
▼通勤・通学先

「市外の職場・学校」が50%
「市内の職場・学校」は22%
「通勤・通学なし」も28%



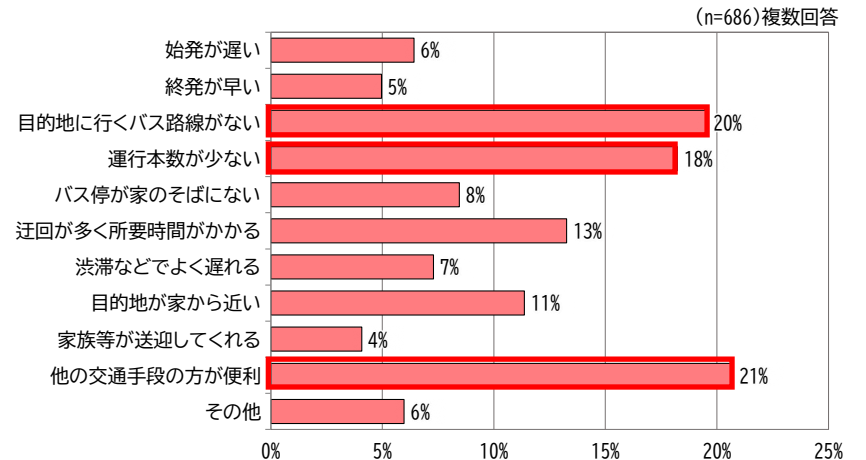
▼通勤通学時の移動手段

「自転車」が42%、次いで「自動車（自分で運転）」が29%
「送迎（家族等による）」は8%
公共共通である、「路線バス」は16%、
「MMシャトル」は5%、「むらタク」は0.2%



▼公共交通を利用しない理由

「他の交通手段の方が便利」が21%で最も多く、
次いで「目的地に行くバス路線がない」が20%、
「運行本数が少ない」が18%



その他の主な意見

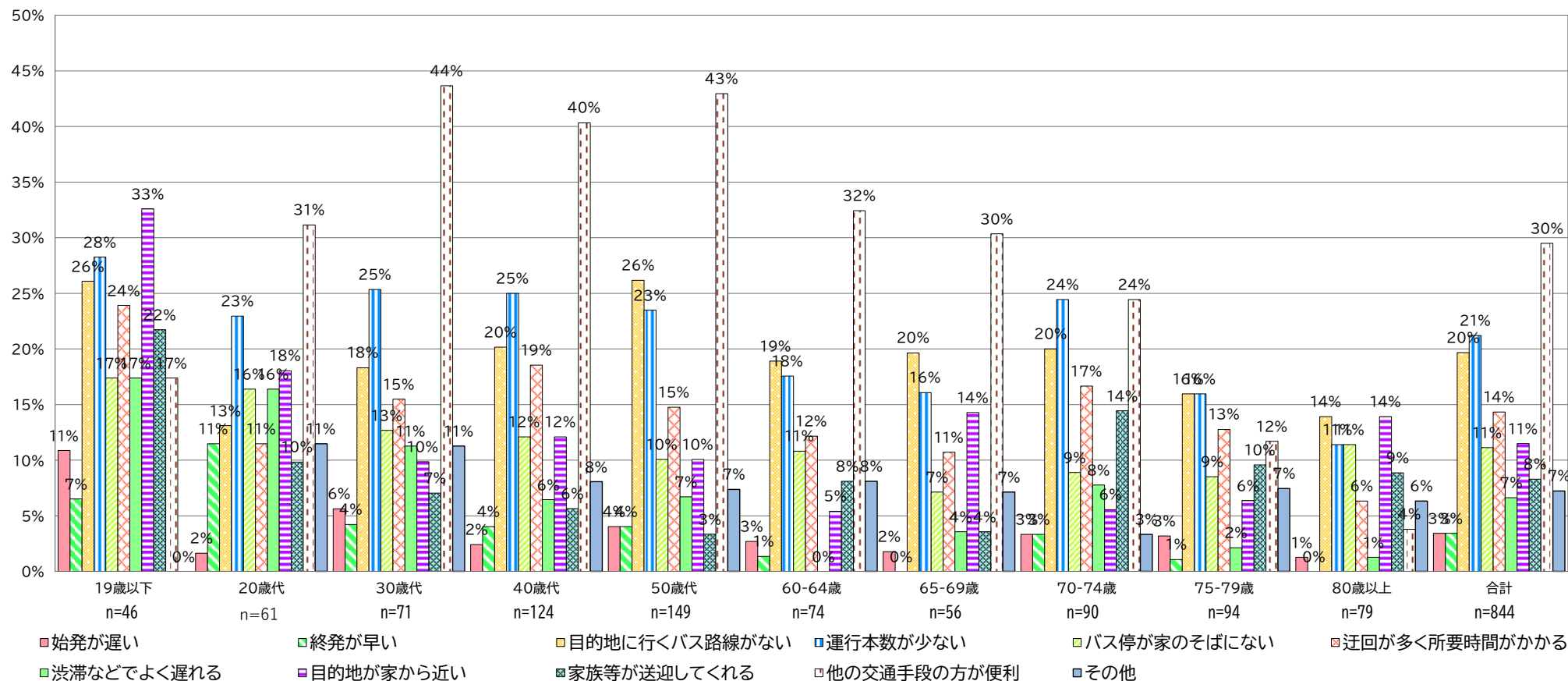
- ・「必要がない」9件
- ・「運賃が高額である」7件

通勤・通学の移動状況

- 30歳代～75歳代まで「他の交通手段の方が便利」と回答が最も多く、75歳以上も一定数回答
- 次いで、どの世代も「目的地に行くバス路線がない」、「運行本数が少ない」との回答が多い

▼年代別の公共交通を利用しない理由

30歳代～50歳代は「他の交通手段の方が便利」の割合が4割以上、70歳代にも「他の交通手段の方が便利」との回答が1～2割、どの世代でも「運行本数が少ない」、「目的地に行くバス路線がない」という回答が比較的多い

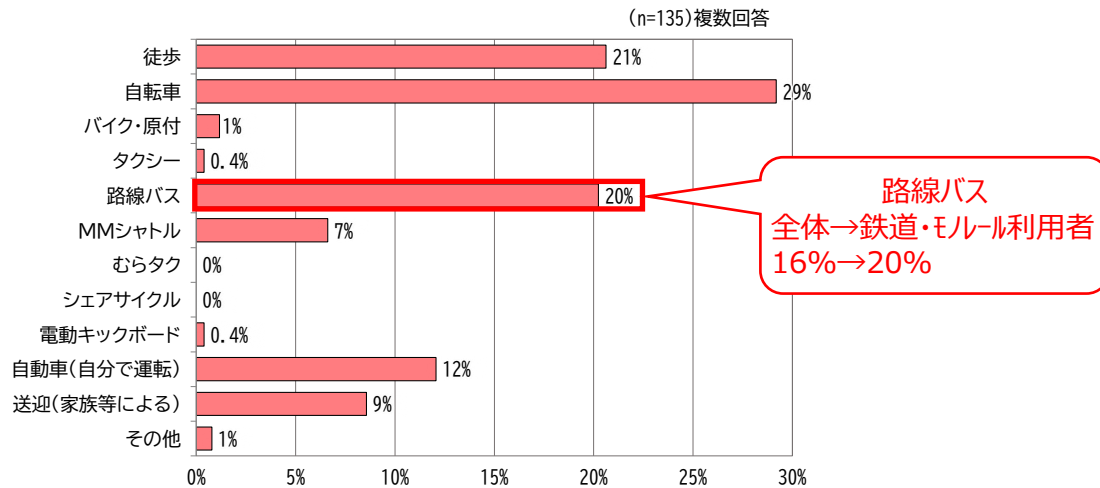


通勤・通学の移動状況

- 鉄道・モノレール利用者の端末交通手段では、全体と比較して「自転車」「自動車（自分で運転）」の割合が下がり、「路線バス」は増加
- モノレール駅に近い「大南・学園」居住者が39%を占め、利用しやすい居住地と利用手段に関係性がみられる

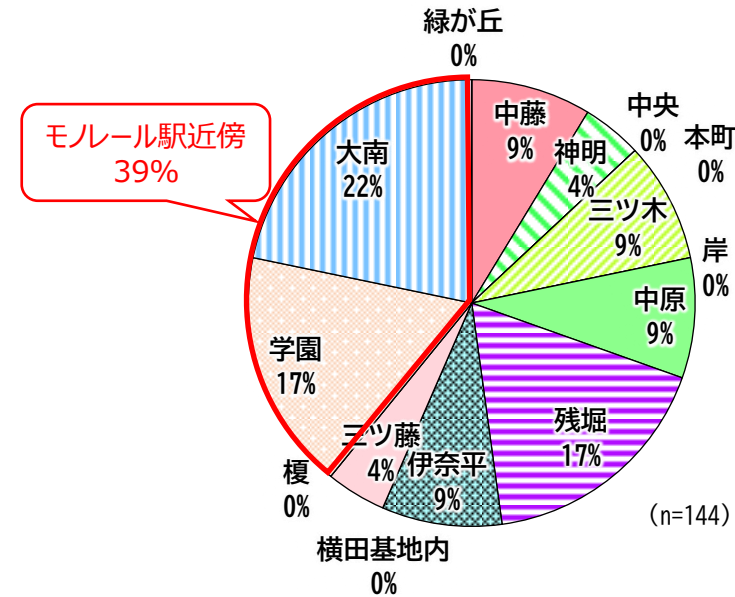
▼鉄道・モノレール利用者の端末交通手段

「自転車」が29%と多く、次いで「徒歩」は21%、
「路線バス」は20%
「自動車（自分で運転）」は12%
「送迎（家族等による）」は9%



▼鉄道・モノレールを選択した方の居住地

鉄道・モノレール利用者の居住地は
「大南」が22%、「学園」が17%、「残堀」が17%

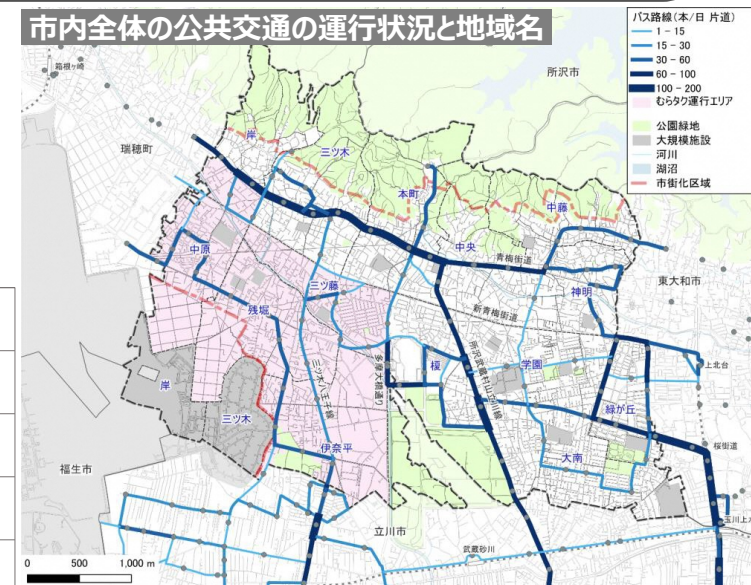
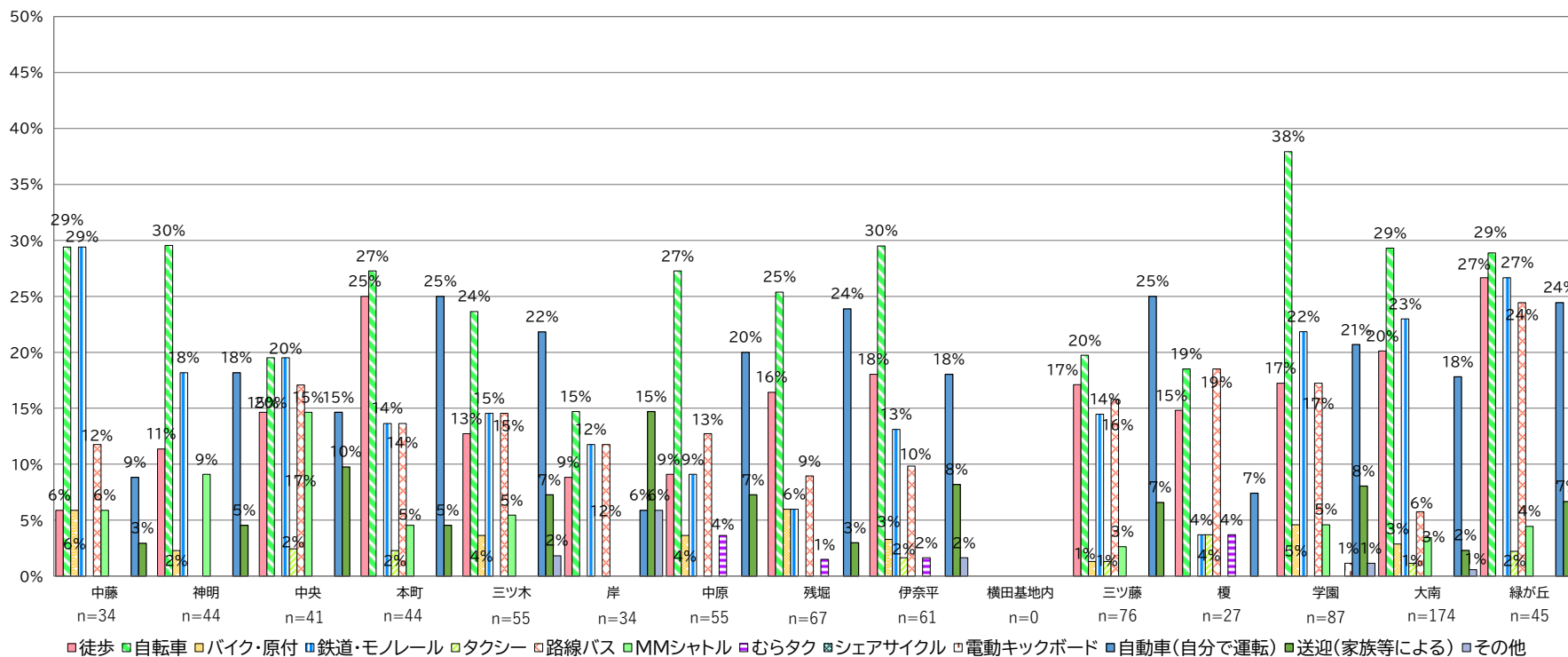


通勤・通学の移動状況

- 鉄道・モノレール利用者の端末交通手段では、全体と比較して「自転車」「自動車（自分で運転）」の割合が下がり、「路線バス」は増加
- 居住地別でみると地域の公共交通の利用のしやすさと利用手段に関係性がみられる

▼居住地別の通勤・通学時の交通手段

モノレールや玉川上水駅に近い「中藤」「学園」「大南」「緑が丘」では鉄道・モノレールの利用割合が20%以上あり他の地区より多い
路線バスの利用は「緑が丘」「学園」「榎」「三ツ藤」「中央」で15%より多く、運行本数や路線の多い箇所と一致する



通勤・通学の移動状況

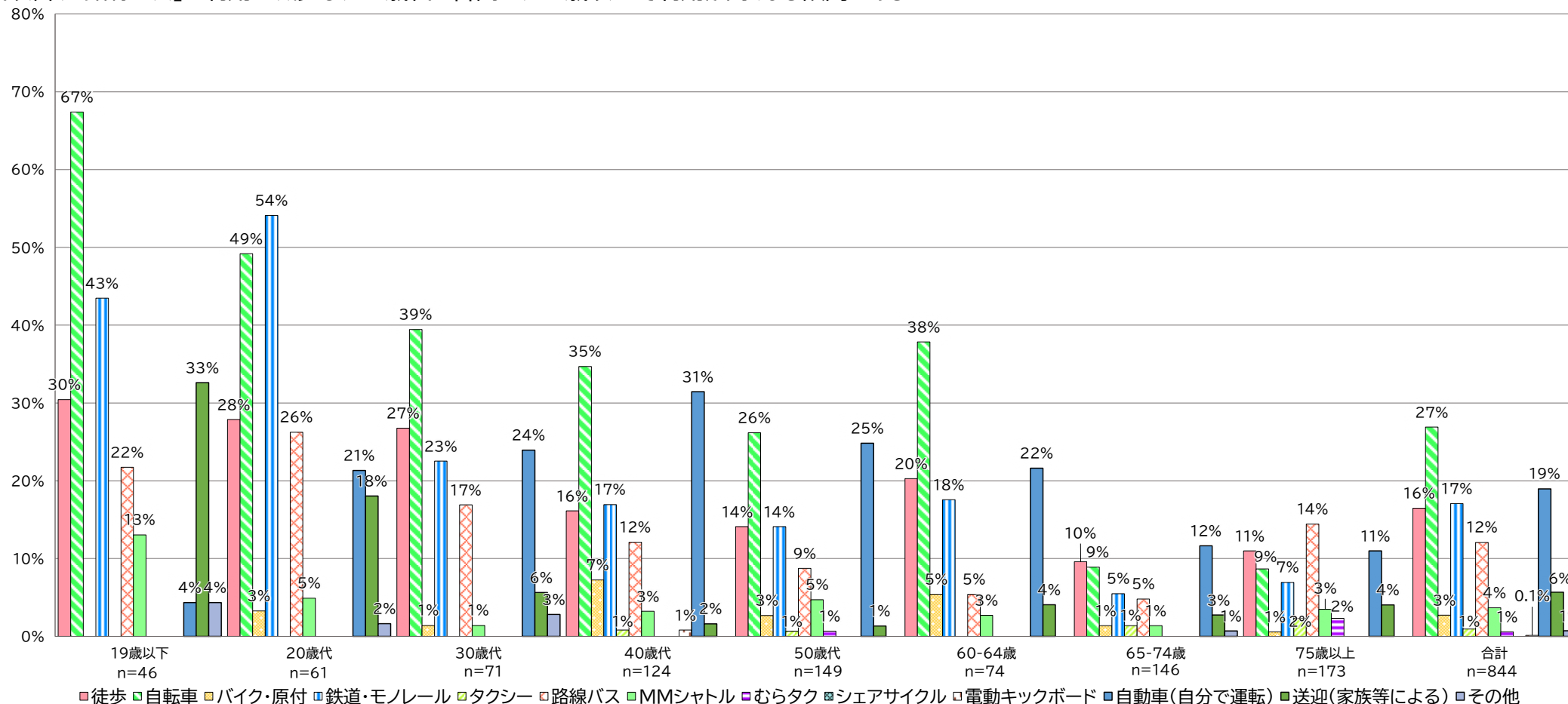
- 30歳代以上での「自動車（自ら運転）」の割合が高く5割以上
- 19歳以下では「自転車」が7割弱と多く、また「送迎（家族等による）」が4割弱存在

▼年齢別の通勤・通学時の交通手段

30歳代以上では「自動車（自分で運転）」が特に高く50%を超える、ただし60歳代を過ぎるとその割合は減少傾向にある

19歳以下は「自転車」、「鉄道・モノレール」、「送迎（家族等による）」が高い

20歳代以降、「路線バス」の利用は減少し、60歳代を谷間に、75歳以上で利用が高くなる傾向にある



通勤・通学の移動状況

- 「横田」「武蔵村山市役所前」など運行本数が多いバス停での乗車が多い
- 降車バス停は「立川駅」が最も多く、その他鉄道・モノレール駅での降車が多い

▼路線バス・MMシャトル
最初に乗車するバス停

「武蔵村山市役所前」が最も多く7%
次いで「横田」「村山団地」が6%

n=117

バス停名	回答数	割合
武蔵村山市役所前	8	7%
横田	7	6%
村山団地	7	6%
公園西〔武蔵村山市〕	5	4%
三ツ藤	5	4%
三本榎	5	4%
貝塚	4	3%
学園	4	3%
新海道	4	3%
村山医療センター入口	4	3%
薬師堂前	4	3%
岸	3	3%
原山	3	3%
三ツ藤住宅	3	3%
新道	3	3%
神明二丁目	3	3%
団地中央	3	3%
中藤	3	3%

※2以下は非表示

▼路線バス・MMシャトル
最後に降車するバス停

降車場所は「立川駅」が28%で多い
次いで「玉川上水駅」「上北台駅」「昭島駅」であり駅での降車が多い

n=117

バス停名	回答数	割合
立川駅[立川市]	33	28%
玉川上水駅[東大和市]	26	22%
上北台駅[東大和市]	11	9%
昭島駅[昭島市]	11	9%
イオンモール(イオンモール、イオンモールむさし村山、イオンモール東)	7	6%
武蔵村山市役所前	4	3%
西武立川駅[立川市]	4	3%
東大和市駅[東大和市]	3	3%
箱根ヶ崎駅[瑞穂町]	3	3%
曙町[立川市]	2	2%

※2以下は非表示

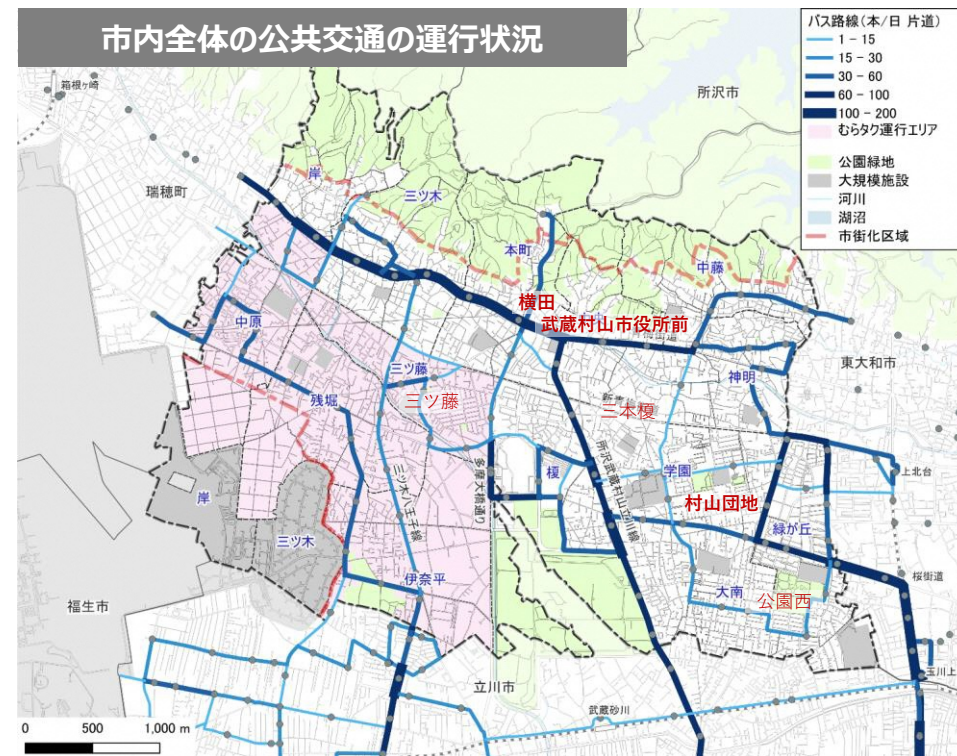
▼むらタク降車場所

「武蔵村山病院」の回答のみ

n=1

バス停名	割合	回答数
武蔵村山病院	100%	1

市内全体の公共交通の運行状況



▼むらタクからの乗継状況

むらタク乗車後の乗継も一部されている

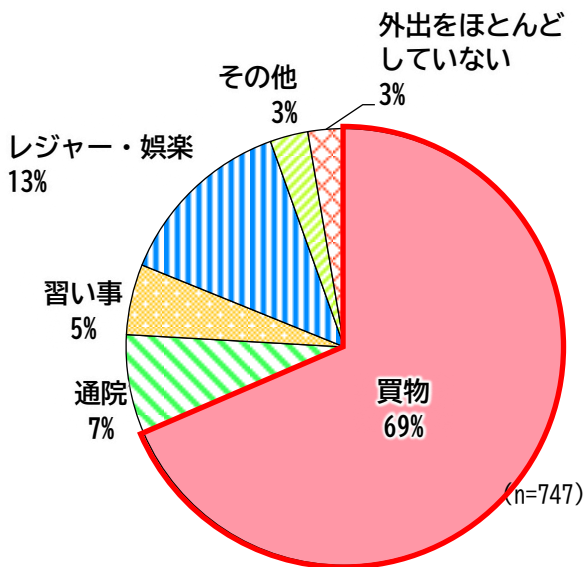


・ 通勤・通学以外の移動状況 ・

- 買物での移動が7割と最も多い、目的地は市内・市外でそれぞれ半数
- 目的地は市内では「イオンモール」が最も多く5割、市外で「立川市」が最も多く5割

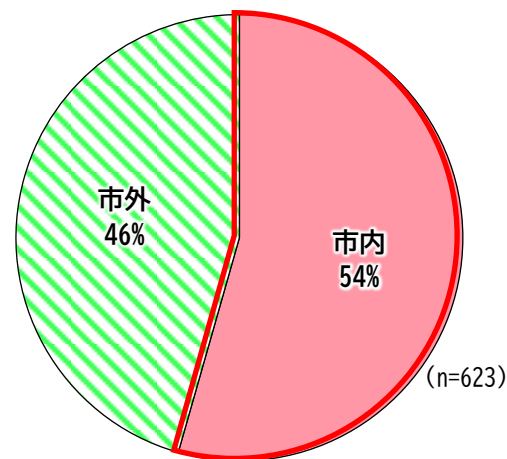
▼通勤・通学以外の外出目的

「買物」が69%
次いで「レジャー・娯楽」が13%



▼通勤・通学以外の外出先

「市内」が54%と少し多いが
「市内」「市外」でそれぞれ約半数



▼通勤・通学以外の市内の目的施設

「イオンモール」が最も多く約51%
次いで「いなげや」が9%

n=463 (複数回答)

目的施設	回答数	割合
イオンモール	235	51%
いなげや	41	9%
武蔵村山病院	16	3%
ダイエー	16	3%
三ツ木	15	3%
学園	8	2%
榎	6	1%
残堀	5	1%
三ツ藤	5	1%
大南	5	1%
岸	4	1%
中央	3	1%
伊奈平	2	0.4%
中原	2	0.4%
中藤	2	0.4%

※1以下は非表示

▼通勤・通学以外の市外の目的施設

「立川市」が最も多く50%
次いで「東大和市」が16%、
「ジョイフル本田」が7%

n=267 (複数回答)

目的施設	回答数	割合
立川市	134	50%
東大和市	43	16%
ジョイフル本田[瑞穂町]	20	7%
昭島市	16	6%
その他	15	6%
立川駅[立川市]	9	3%
ルミネ[立川市]	6	2%
ららぽーと[立川市]	7	3%
青梅市	7	3%
カインズホーム[昭島市]	4	1%
新宿[新宿区]	4	1%
ベルク[東大和市]	4	1%
八王子市	4	1%
小平市	3	1%
上北台駅[東大和市]	2	1%
調布市	2	1%

※1以下は非表示

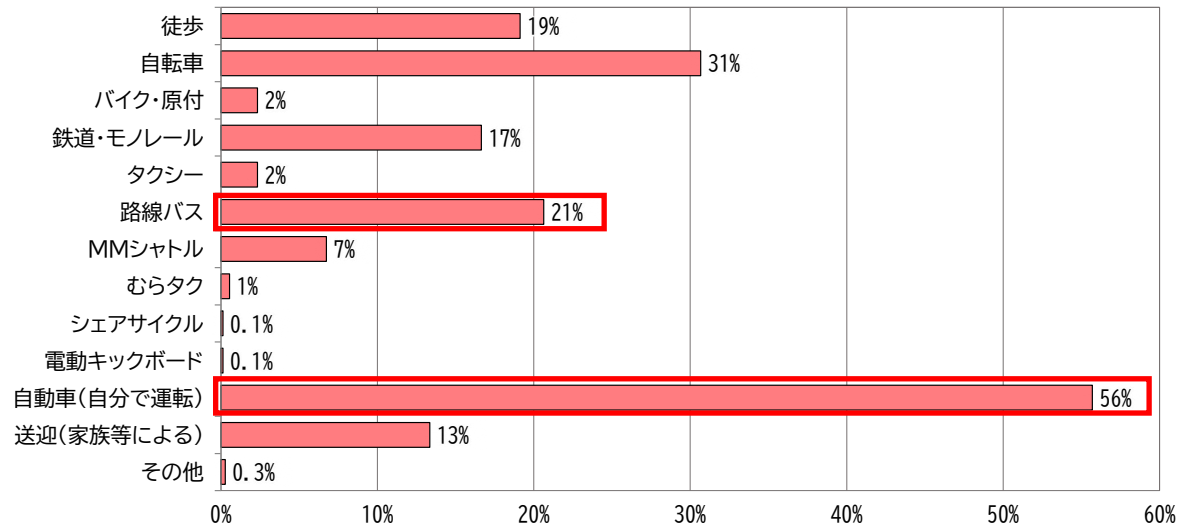
・ 通勤・通学以外の移動状況 ・

- 自動車での移動が多く、自分で運転・送迎を含めると7割
- 路線バスでの移動は2割
- バスを利用しない理由は「他の交通手段の方が便利」が多いが、「運行本数が少ない」、「目的地に行くバス路線がない」も2割

▼外出時の交通手段

「自動車（自分で運転）」が56%で最も多く、次いで「自転車」が31%
公共共通である、「路線バス」は21%、「MMシャトル」は7%、「むらタク」は1%

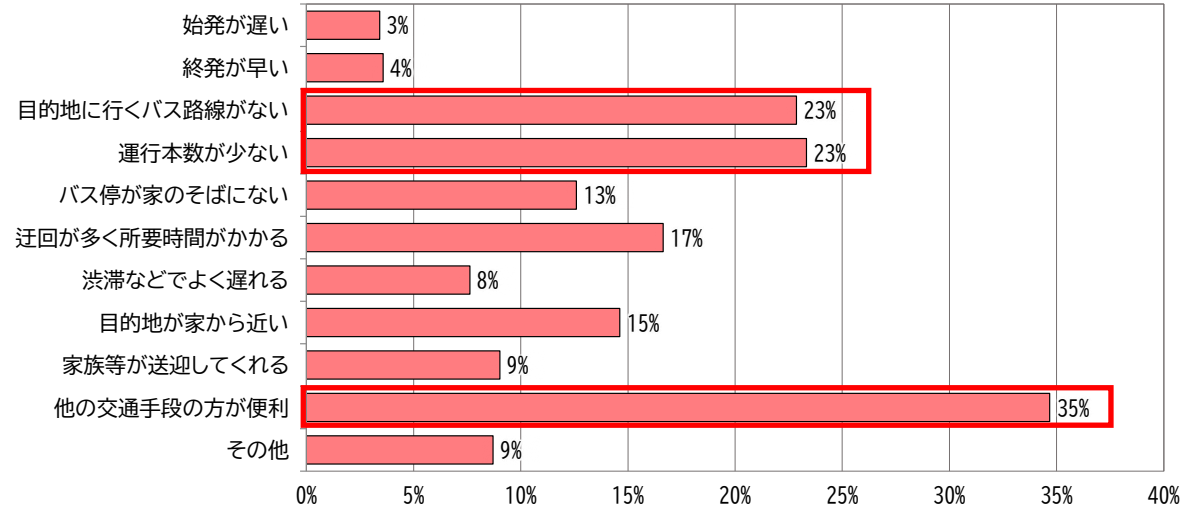
(n=727)複数回答



▼バスを利用しない理由

「他の交通手段の方が便利」が35%で最も多く、
次いで「運行本数が少ない」、「目的地に行くバス路線がない」がそれぞれ23%

(n=643)複数回答



その他の主な意見

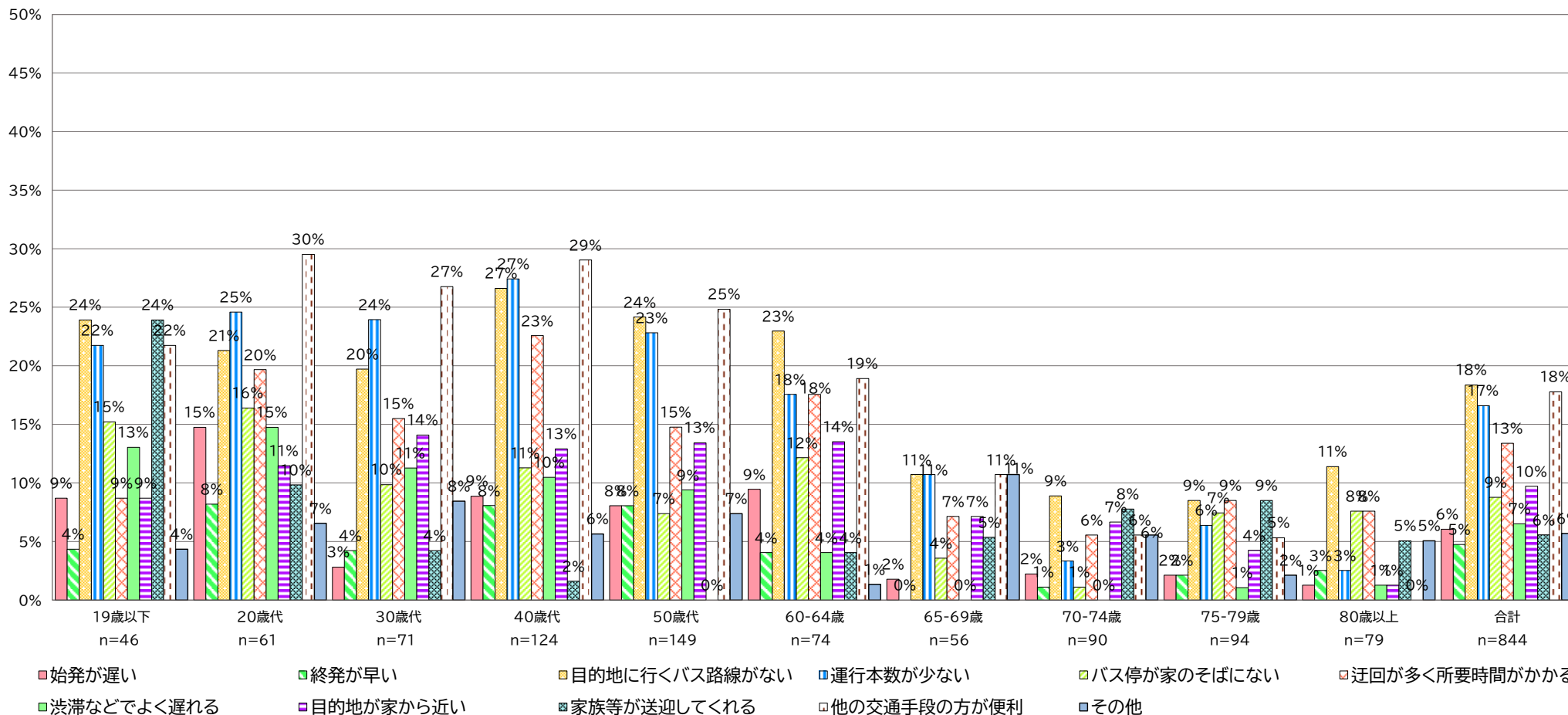
- ・「荷物が多い」12件
- ・「自動車を利用」11件
- ・「運賃が高額」8件

・ 通勤・通学以外の移動状況 ・

- 20歳代～60歳代まで「他の交通手段の方が便利」と回答が多く、70歳代でも一定数が回答
- 次いで、「目的地に行くバス路線がない」、「運行本数が少ない」との回答が多い

▼年代別の公共交通を利用しない理由

20歳代～50歳代は「他の交通手段の方が便利」の割合が3割程度、70歳代にも「他の交通手段の方が便利」との回答が1割程度存在、次いで、「運行本数が少ない」、「目的地に行くバス路線がない」という回答が比較的多い

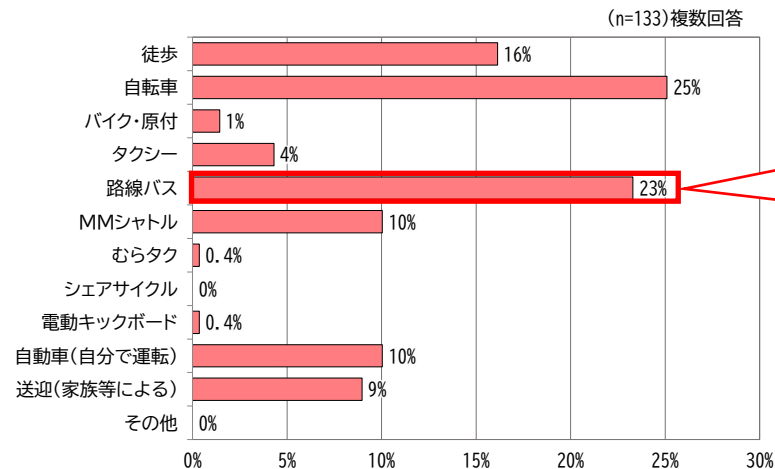


・ 通勤・通学以外の移動状況 ・

- 鉄道・モノレール利用者の端末交通手段では、全体と比較して「自転車」「自動車（自分で運転）」の割合が下がり、「路線バス」はやや増加
- モノレール駅に近い「大南・学園・緑が丘」居住者が45%を占め、利用しやすい居住地と利用手段に関係性がみられる

▼ 鉄道・モノレールを選択した方の端末交通手段

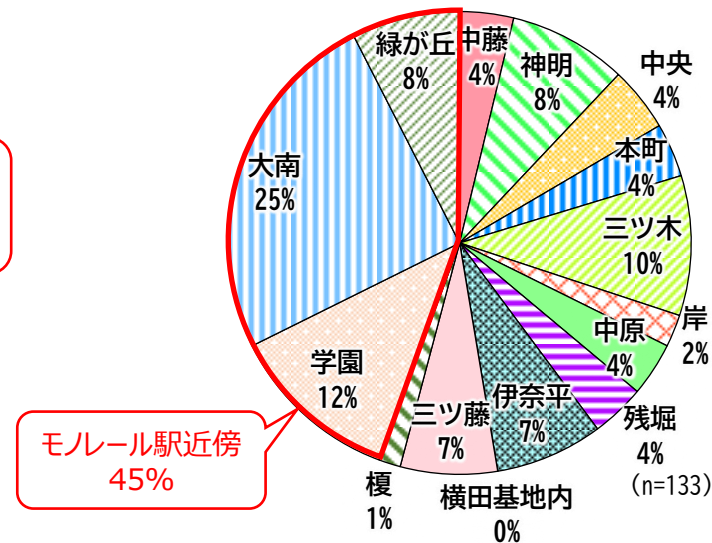
「自動車（自分で運転）」の割合は大きく減少し10%
 その他は大きな違いはない



路線バス
 全体→鉄道・モノレール利用者
 21%→23%

▼ 鉄道・モノレールを選択した方の居住地

鉄道・モノレール利用者の居住地は
 「大南」が25%、「学園」が12%、「緑が丘」が8%

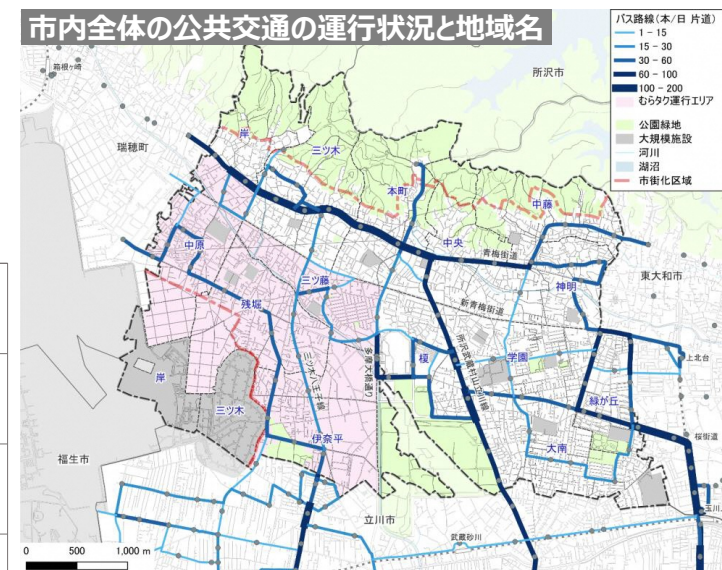
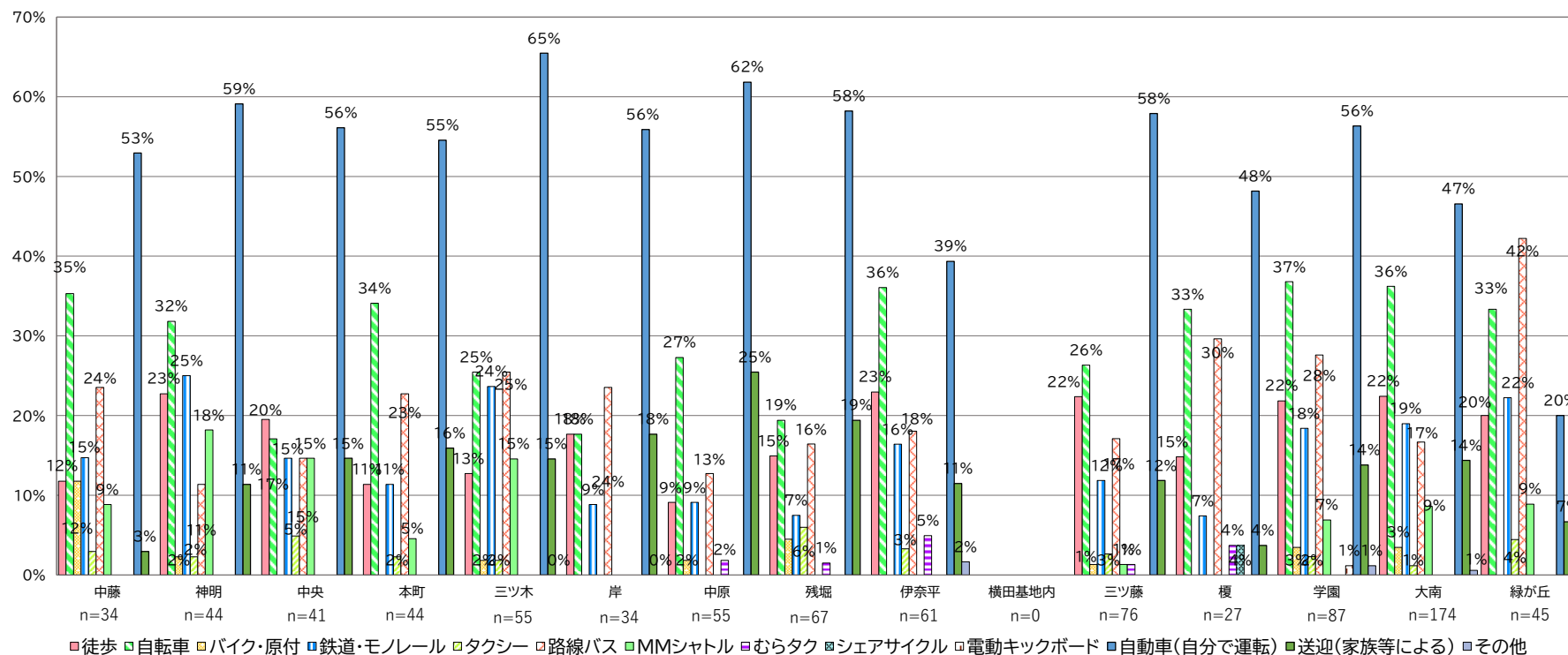


・ 通勤・通学以外の移動状況 ・

- 鉄道・モノレールを利用して外出している方のうち2割は、端末交通手段として「自転車」「路線バス」を利用
- いずれの地域も「自動車（自分で運転）」が多いが、「緑が丘」では他地区より「路線バス」の割合が高い

▼居住地別の通勤・通学以外の外出の際の交通手段

いずれの地域でも「自動車（自分で運転）」が最も多く、「伊奈平」、「緑が丘」を除き概ね50%以上
「緑が丘」では他の地域に比べて「路線バス」の割合が高く40%以上



・ 通勤・通学以外の移動状況 ・

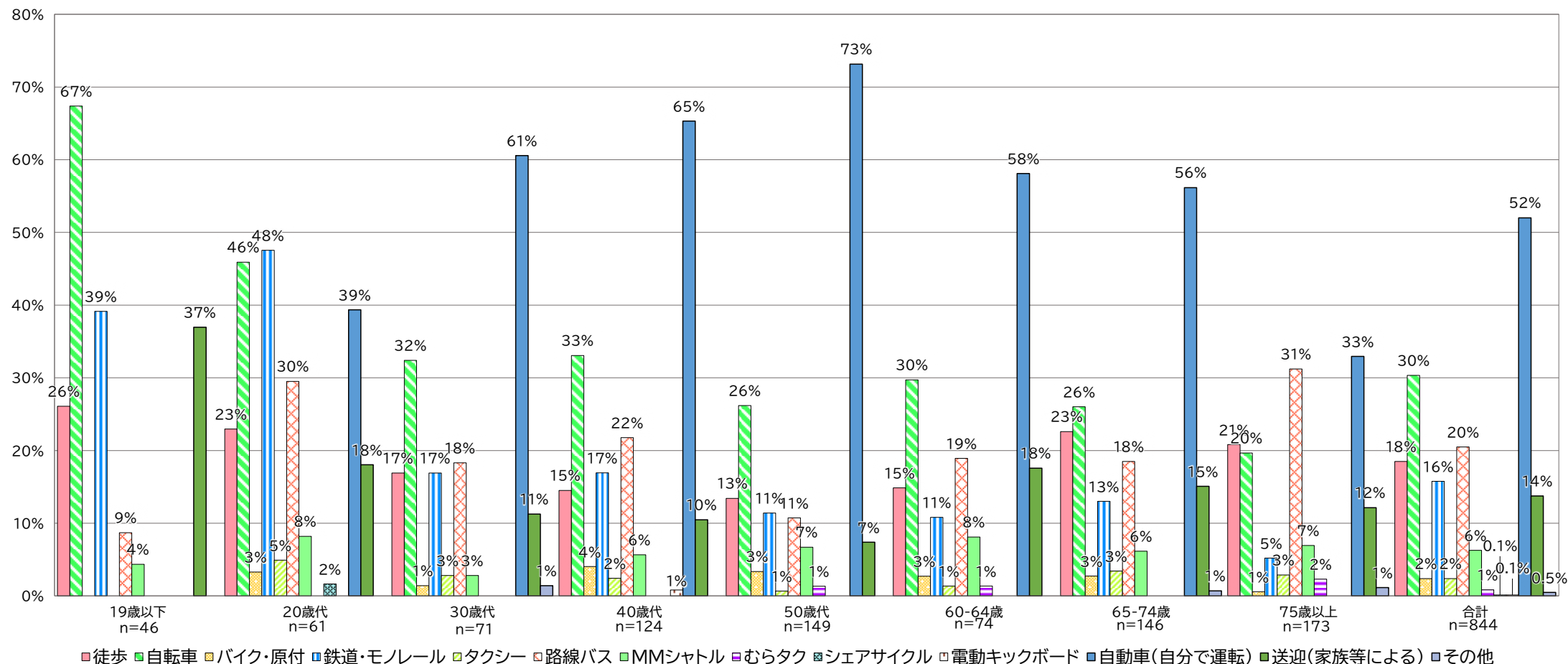
- 30歳代以上での「自動車（自ら運転）」の割合が高く5割以上、特に50歳代は高く7割以上
- 19歳以下では「自転車」が7割弱と多く、また「送迎（家族等による）」が4割弱存在

▼年齢別の通勤・通学以外の外出の際の交通手段

30歳代以上のどの年代も「自動車（自分で運転）」の5割以上である、特に50歳代では73%と高い

19歳以下は「自転車」が67%と最も高く、「送迎（家族等による）」も37%と他の年代に比べて高い

20歳代以上で見ると、「路線バス」の利用は50歳代を谷間にして年齢が下がる、上がるにつれて高くなる傾向にある、これは通勤・通学時の交通手段と同様の傾向である

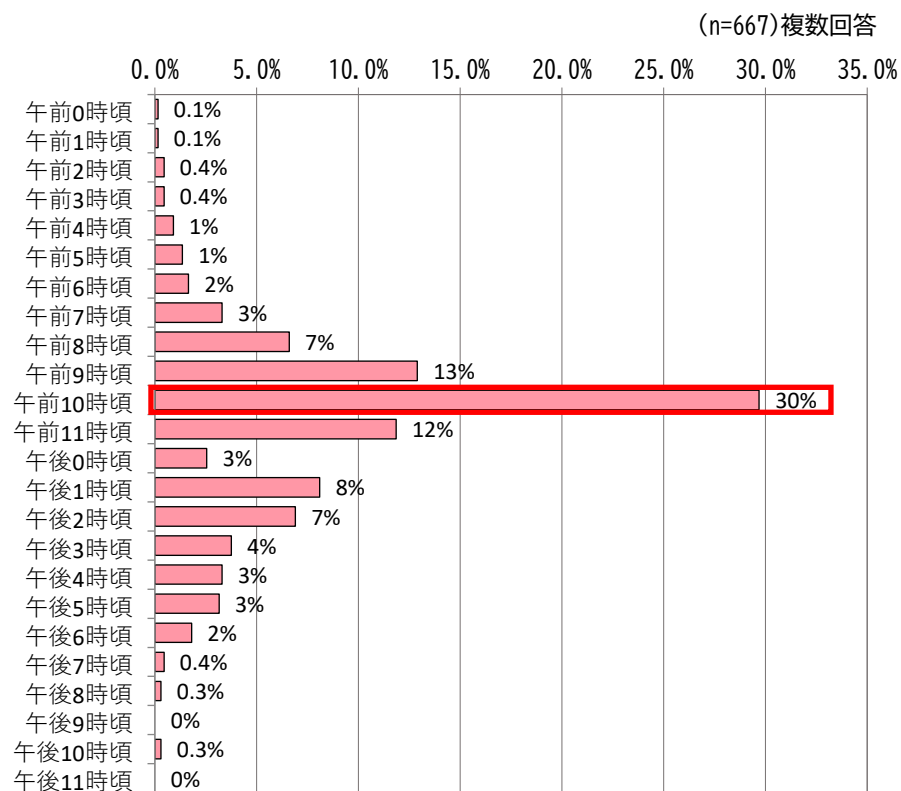


・ 通勤・通学以外の移動状況 ・

- 出発する時間帯は午前10時頃が多い
- 帰宅の時間帯は午後0時以降で満遍なく分布

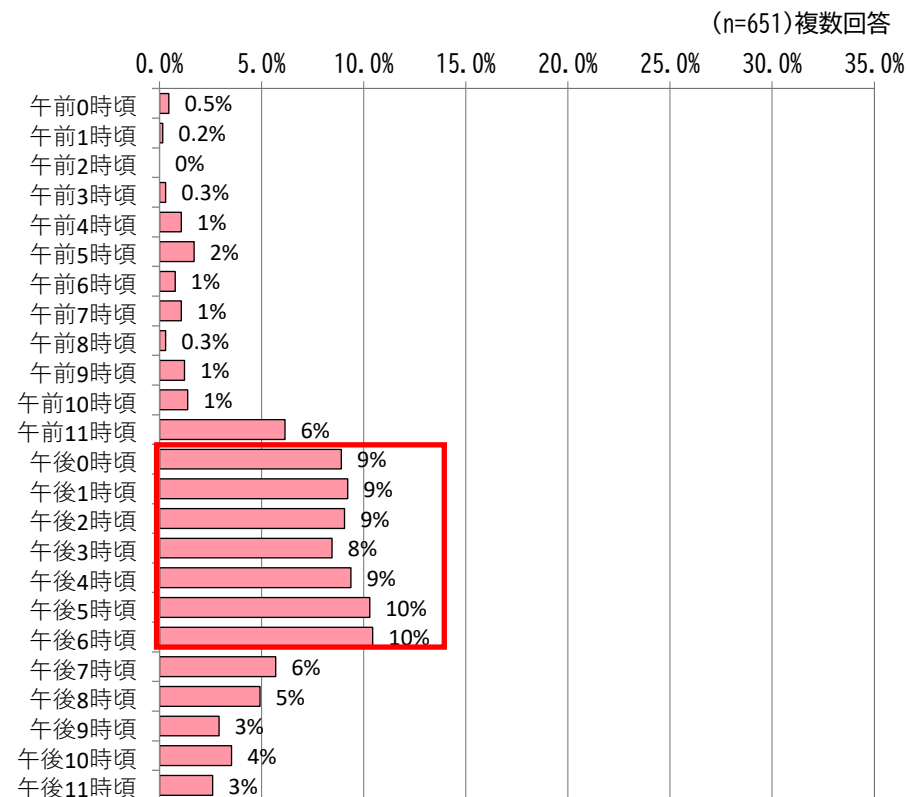
▼ 出発する際の時間帯

午前10時頃が最も多く30%
午前10時頃をピークに前後とも徐々に減少



▼ 帰宅する際の時間帯

午後0時から午後6時までが8%以上
出発する時間帯と近い、午後の時間帯で満遍なく分布



・ 通勤・通学以外の移動状況 ・

- 乗車場所は「イオンモール」「村山団地」が多い
- 降車場所は「立川駅」が多く、次いで「イオンモール」、「玉川上水」、「昭島駅」

▼路線バス・MMシャトル

最初に乗車するバス停

「イオンモール」「村山団地」が多く8%
次いで「公園西〔武蔵村山市〕」「新海
道」「薬師寺前」が6%

n=117

バス停名	回答数	割合
イオンモール(イオンモール、イオンモール むさし村山、イオンモール東)	9	8%
村山団地	9	8%
公園西〔武蔵村山市〕	7	6%
新海道	7	6%
薬師寺前	7	6%
横田	6	5%
三ツ藤	6	5%
団地中央	6	5%
武蔵村山市役所前	6	5%
新道	5	4%
村山医療センター入口	5	4%
大南	5	4%
伊奈平南交差点	4	3%
学園	4	3%
神明二丁目	4	3%
中藤	4	3%
長円寺	4	3%
貝塚	3	3%
原山	3	3%
湖南衛生組合前	3	3%
五中南	3	3%
三本榎	3	3%
大南一丁目	3	3%
団地西	3	3%
団地南	3	3%
団地入口	3	3%
峰	3	3%

※2以下は非表示

▼路線バス・MMシャトル

最後に降車するバス停

降車バス停は「立川駅」が最も多く56%
次いで「イオンモール」「玉川上水」「昭島駅」

n=117

バス停名	回答数	割合
立川駅[立川市]	66	56%
イオンモール(イオンモール、イオンモール むさし村山、イオンモール東)	23	20%
玉川上水駅[東大和市]	21	18%
昭島駅[昭島市]	20	17%
上台北駅[東大和市]	13	11%
西武立川駅[立川市]	5	4%
村山医療センター	3	3%
武蔵村山市役所前	3	3%

※2以下は非表示

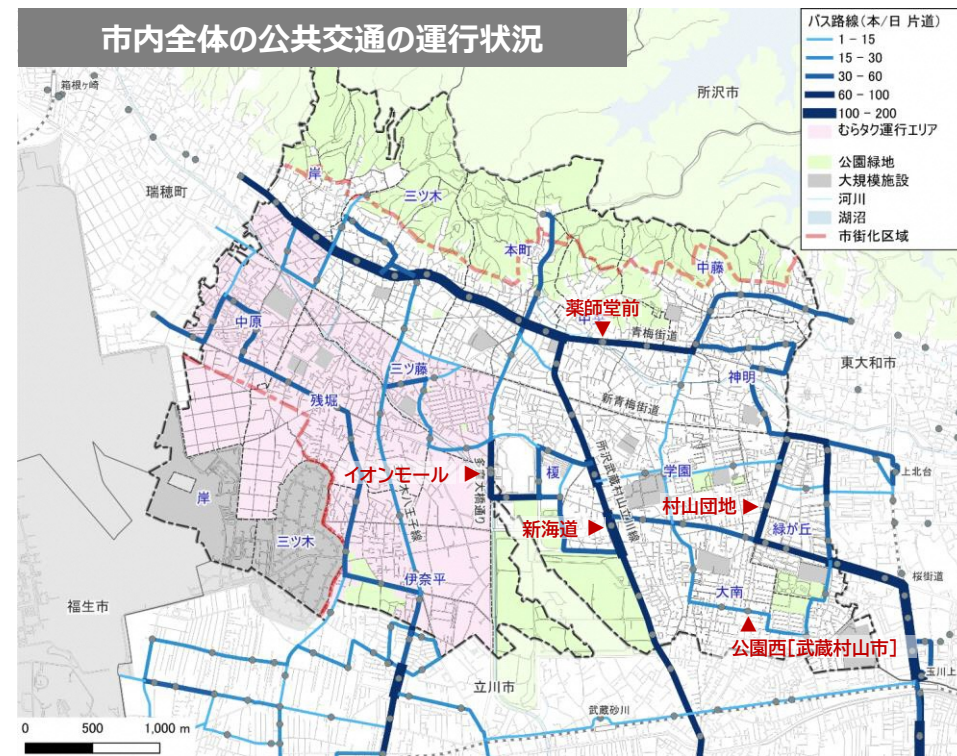
▼むらタク降車場所

「武蔵村山病院」の回答のみ

n=1

バス停名	割合	回答数
武蔵村山病院	100%	1

市内全体の公共交通の運行状況



▼むらタクからの乗継状況

むらタク乗車後の乗継も一部されている

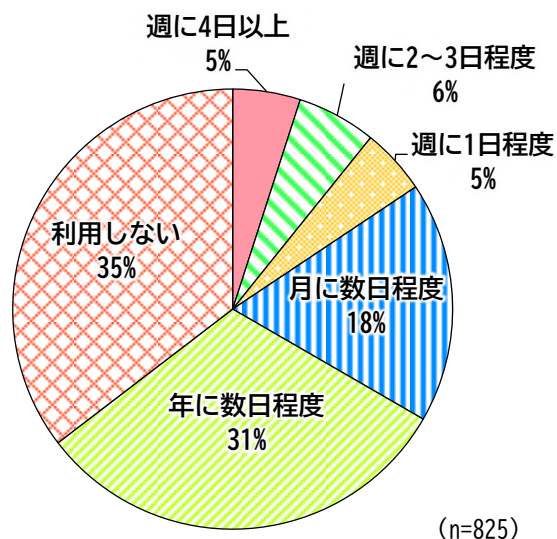


利用頻度

- むらタク、MMシャトル、路線バスの順で利用頻度が低い

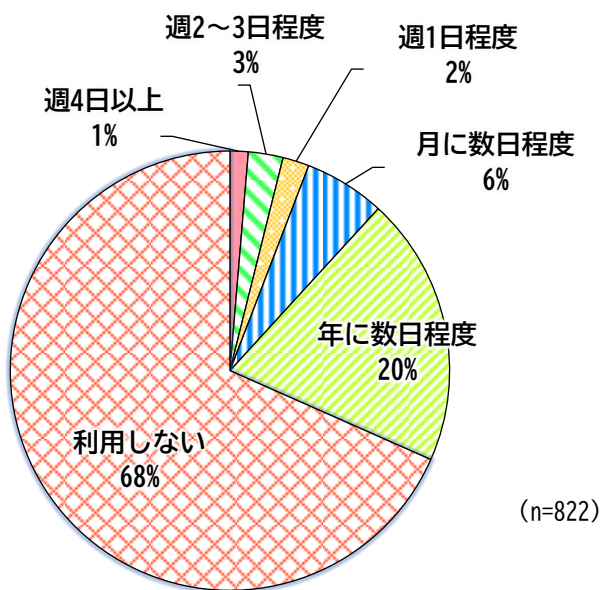
▼路線バスの利用頻度

「利用しない」が35%で最も多い
「年に数日程度」が31%であり、合わせると66%
週に1日以上利用しているのは16%



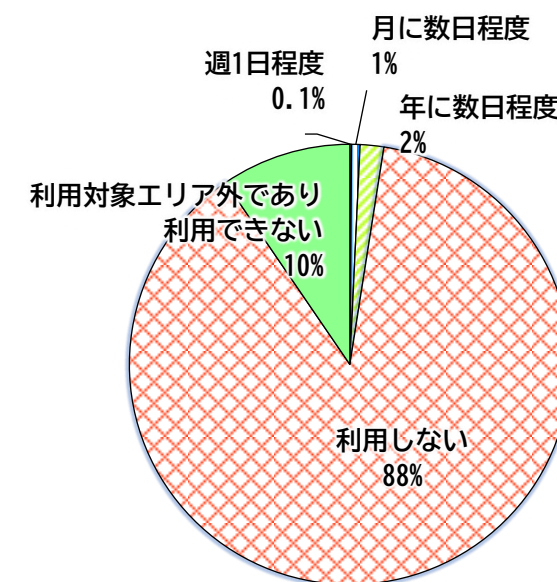
▼MMシャトルの利用頻度

「利用しない」が68%と最も多い
「年に数日程度」が20%であり、合わせると89%
週に1日以上利用しているのは6%



▼むらタクの利用頻度

「利用しない」が88%と最も多い
「利用対象エリア外であり利用できない」が10%

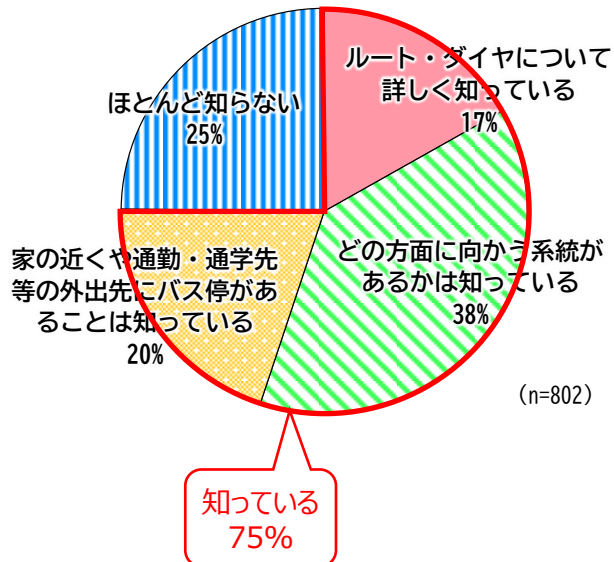


認知度

- 路線バスの認知は進んでいるものの、ルート・ダイヤ・系統などの運行サービス内容の認知度は半数程度
- MMシャトル、むらタクは「ほとんど知らない」が多い

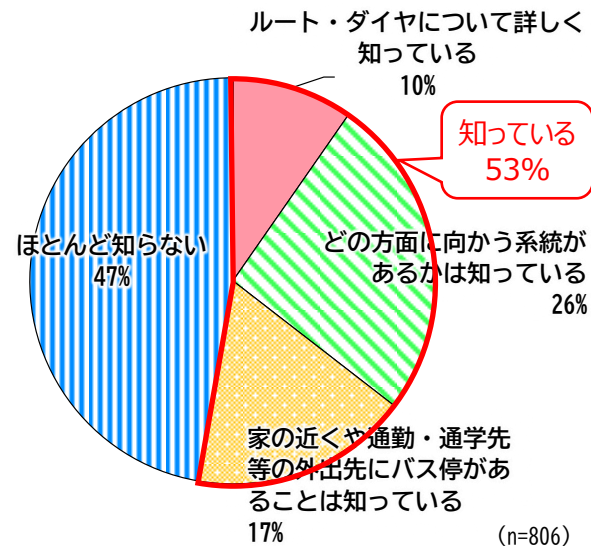
▼路線バスの認知度

- 「知っている」は75%
 「ほとんど知らない」は25%
 「ルート、ダイヤ、系統まで知っている」は55%



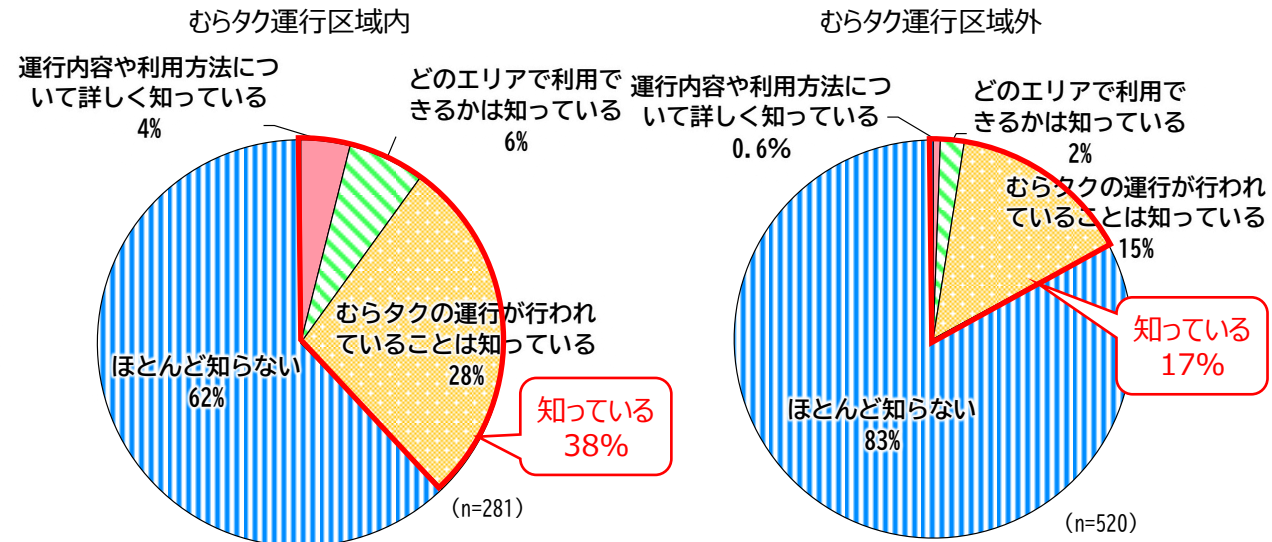
▼MMシャトルの認知度

- 「知っている」は53%
 「ほとんど知らない」が47%
 「ルート、ダイヤ、系統まで知っている」は36%



▼むらタクの認知度

- 「知っている」は運行区域内で38%、運行区域外で17%
 「ほとんど知らない」が運行区域内で62%、運行区域外で83%
 「むらタクの運行が行われていることは知っている」が運行区域内で28%、運行区域外で15%



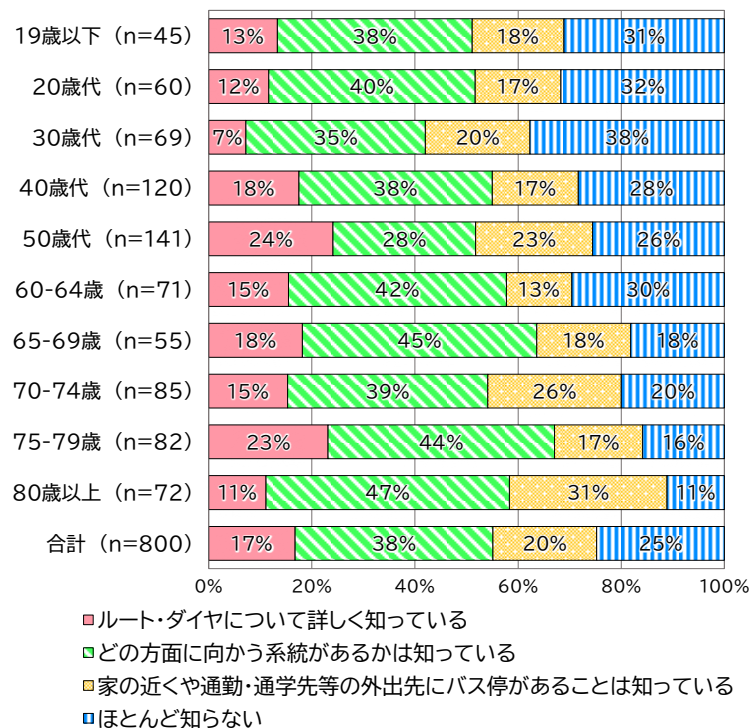
※岸、中原、残堀、伊奈平、三ツ木（横田基地）、三ツ藤を運行区域内としてグラフを作成

認知度

- どの世代も路線バスを「知っている」は6割以上
- MMシャトル、むらタクを「知っている」は、高齢者の割合が高い

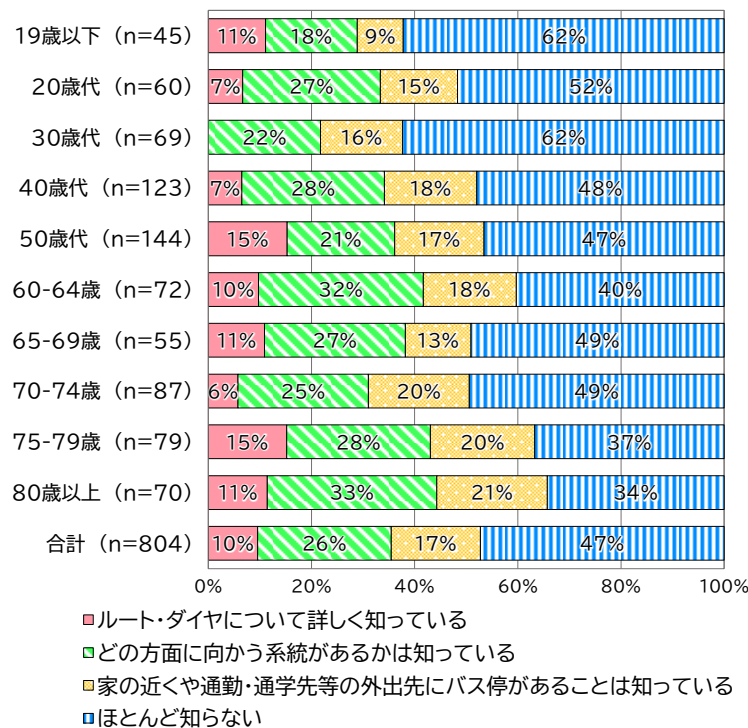
▼年齢別の路線バスの認知度

「知っている」は6割以上
「ルート、ダイヤ、系統まで知っている」は30歳代の割合が5割未満



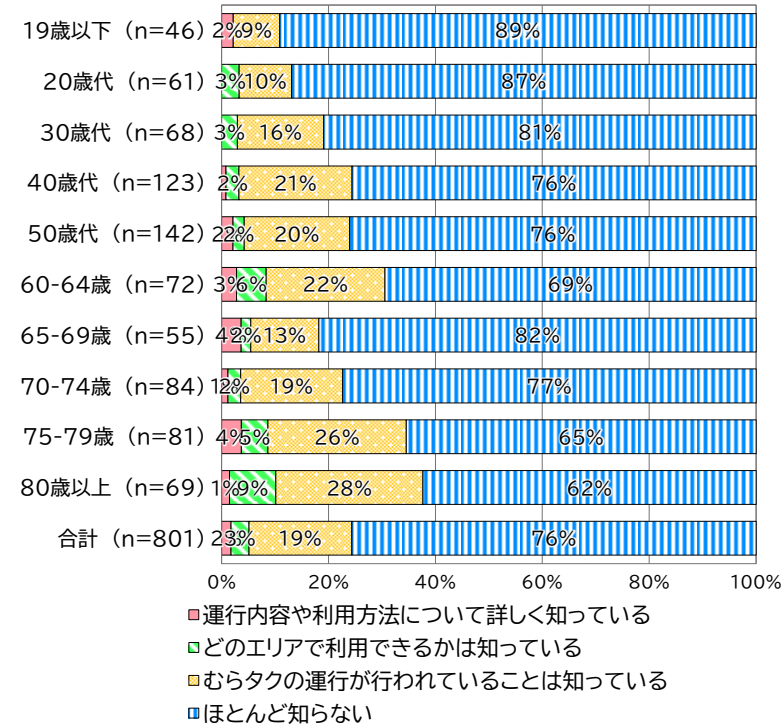
▼年齢別のMMシャトルの認知度

75歳以上は「知っている」が6割以上
「ルート、ダイヤ、系統まで知っている」は30歳代が2割程度



▼年齢別のむらタクの認知度

75歳以上は「知っている」が4割程度
「ルート、ダイヤ、系統まで知っている」は75歳以上がやや多い

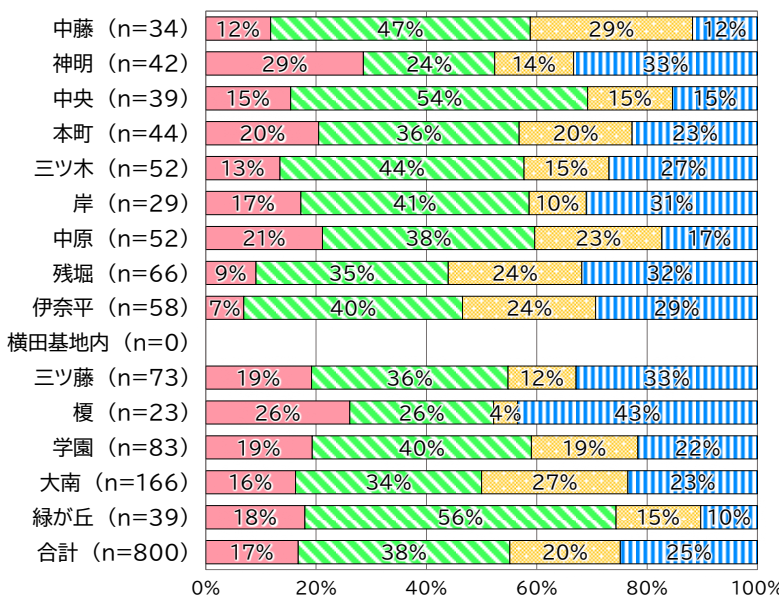


認知度

● MMシャトル、むらタクは運行エリア近隣の居住地で認知度が高い

▼居住地別の路線バスの認知度

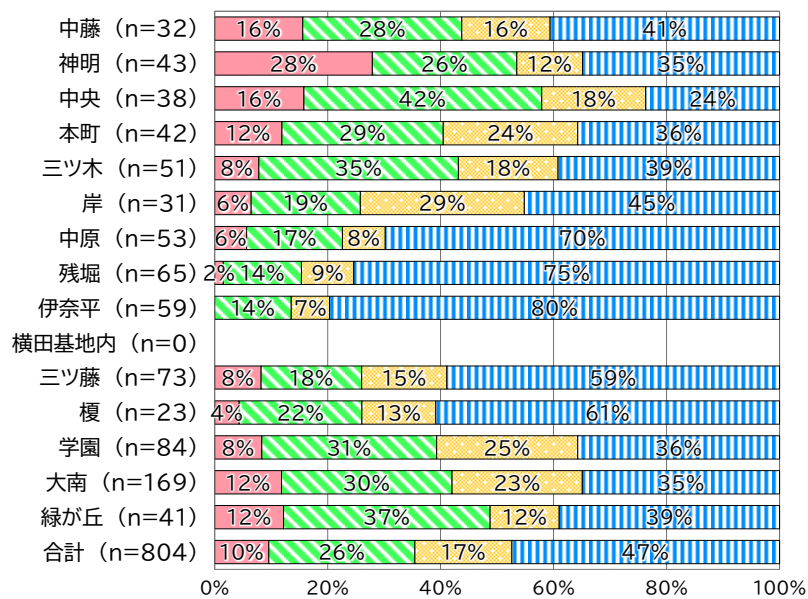
「知っている」は緑が丘、中藤、中原の割合が高い



- ルート・ダイヤについて詳しく知っている
- どの方面に向かう系統があるかは知っている
- 家の近くや通勤・通学先等の外出先にバス停があることは知っている
- ほとんど知らない

▼居住地別のMMシャトルの認知度

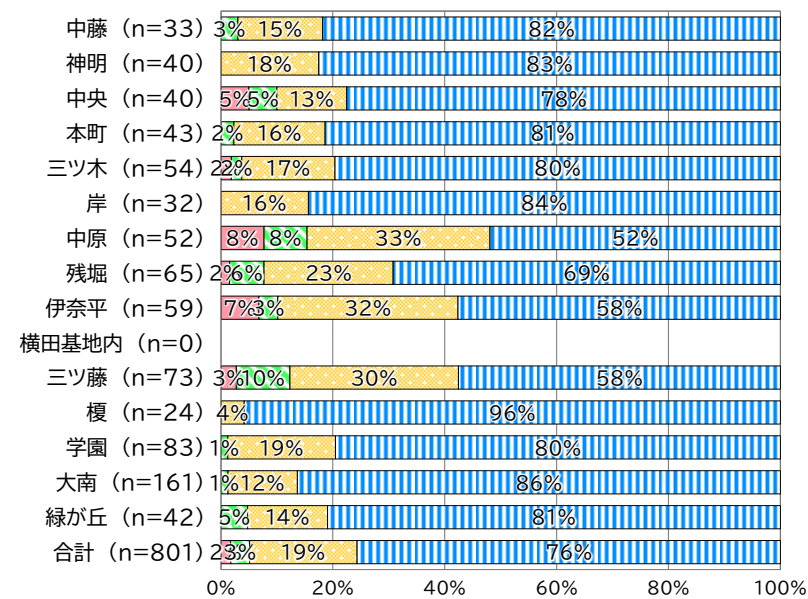
MMシャトル沿線の中央、大南、学園等で、「知っている」割合が高い



- ルート・ダイヤについて詳しく知っている
- どの方面に向かう系統があるかは知っている
- 家の近くや通勤・通学先等の外出先にバス停があることは知っている
- ほとんど知らない

▼居住地別のむらタクの認知度

むらタク運行エリアの中原、伊奈平、三ツ藤、残堀で、「知っている」割合が高い



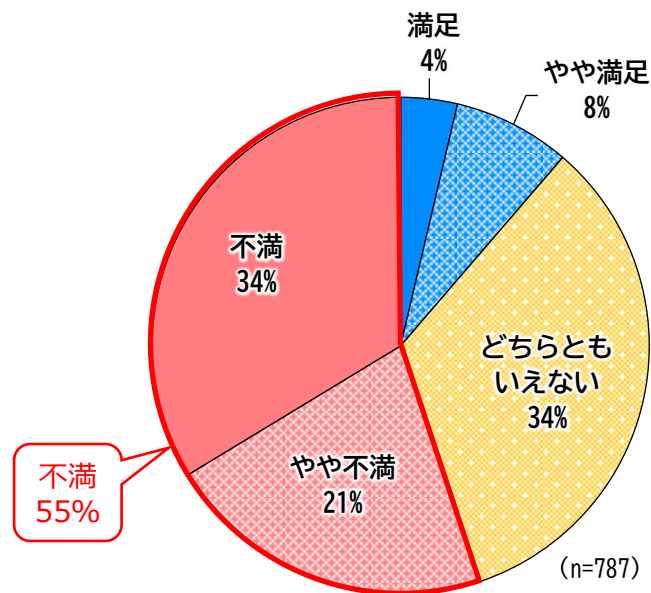
- 運行内容や利用方法について詳しく知っている
- どのエリアで利用できるかは知っている
- むらタクの運行が行われていることは知っている
- ほとんど知らない

満足度

- 公共交通のみでの移動では不満の割合が半数以上と多い
- 自動車を含む市内の移動に関しては半数弱が満足としている

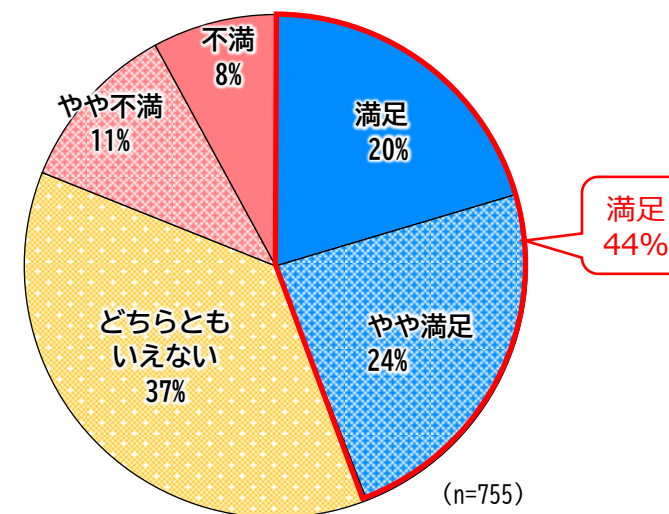
▼公共交通のみの市内移動についての総合的な満足度

「不満」が34%であり、「やや不満」を合わせると55%と半数以上
「満足」「やや満足」では12%



▼自動車での移動を含む市内移動についての総合的な満足度

「満足」「やや満足」を合わせて44%
「不満」「やや不満」は合わせて19%であり、
自動車を含む移動では不満の割合が低い

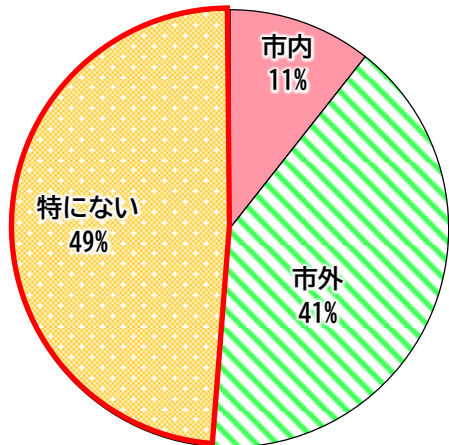


モノレール延伸までの公共交通

- 公共交通で移動したい場所は「特にない」が半数を占める
- 行きたい場所への現在の交通手段は「自動車（自分で運転）」が半数弱、公共交通は3割程度
- MMシャトル・むらタクを「維持したい」が半数以上を占める

▼公共交通で移動したい場所

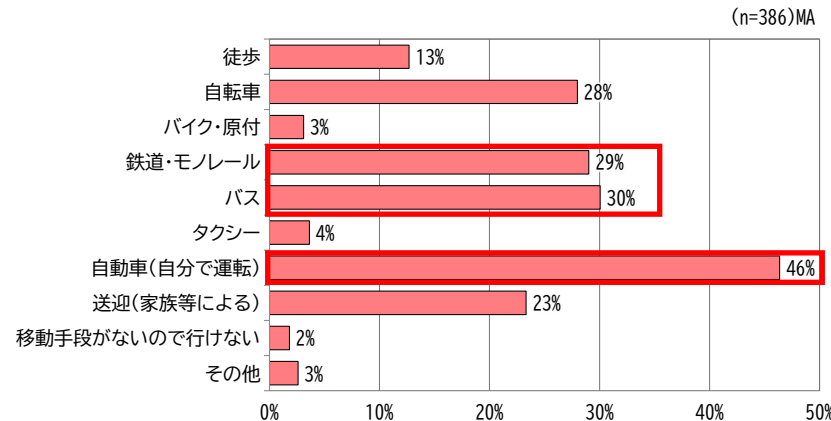
「特にない」が49%
「市内」は少なく11%であり、「市外」は41%



(n=753)

▼行きたい場所への現在の公共交通手段

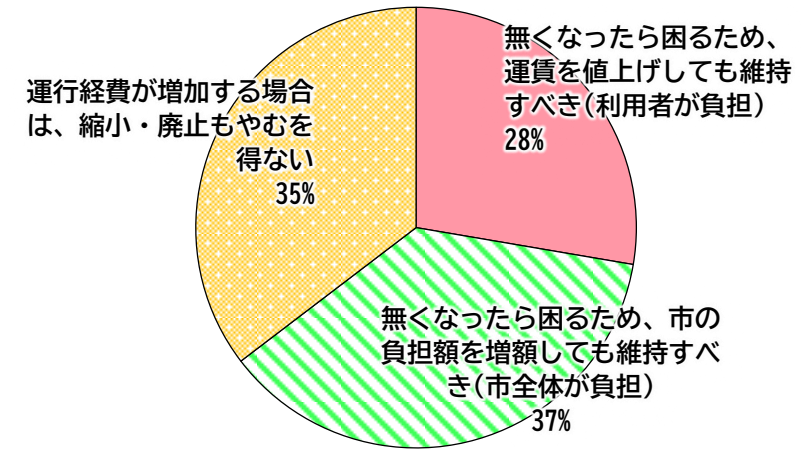
「自動車（自分で運転）」が46%と最も多い
次いで「バス」が30%、「鉄道・モノレール」が29%、
「自転車」が28%



(n=386)MA

▼MMシャトル・むらタクの今後の運用について

「無くなったら困るため、市の負担額を増額しても維持すべき（自然体が負担）」が37%と最も多い
次いで「運行経費が増加する場合は、縮小・廃止もやむを得ない」が35%



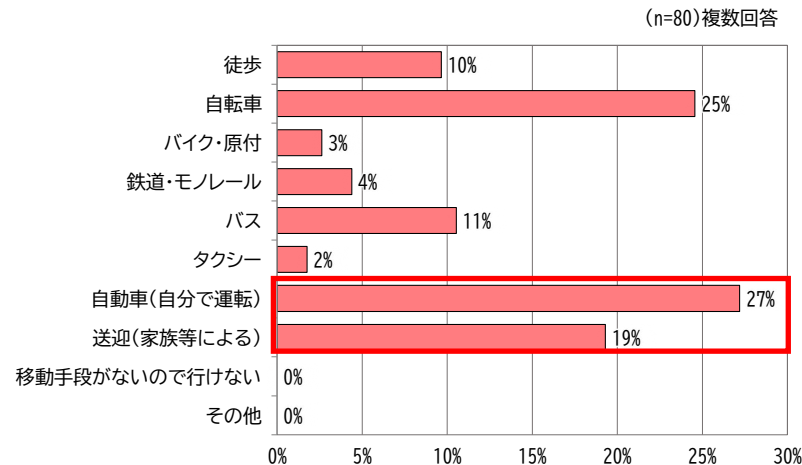
(n=755)

モノレール延伸までの公共交通

- 公共交通で移動したい場所は市内・市外ともに「自動車（自分で運転）」が多く3割弱、市内に比べ、市外に行きたい場所がある方は「鉄道・モノレール」、「バス」の利用割合が2割程度と高い
- 鉄道・モノレール利用者の居住地は「学園」、「大南」が多い
- 路線バス利用者の居住地は「学園」が多い

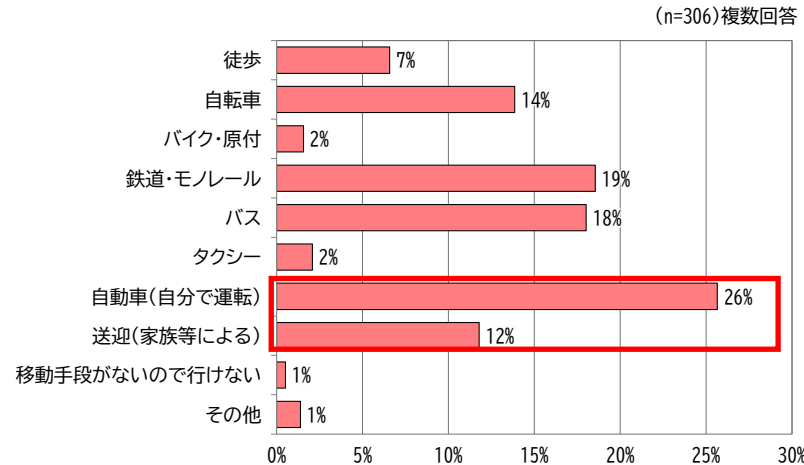
▼市内に行きたい場所がある方の現在の移動手段

「自動車（自分で運転）」が27%と最も多い
次いで「自転車」が25%、「送迎（家族等による）」が19%



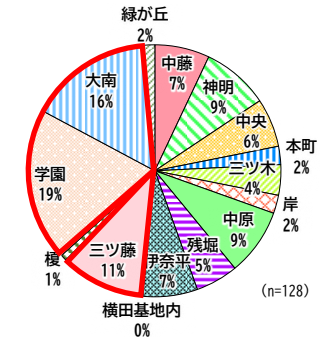
▼市外に行きたい場所がある方の現在の移動手段

「自動車（自分で運転）」が26%と最も多い
次いで「鉄道・モノレール」が19%、「バス」が18%



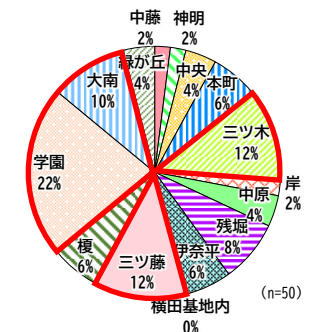
▼鉄道・モノレール利用者の居住地

「学園」が19%と最も多く、次いで「大南」が16%、「三ツ藤」が11%



▼路線バス利用者の居住地

「学園」が22%と最も多く、次いで「三ツ木」、「三ツ藤」が12%、「大南」が10%

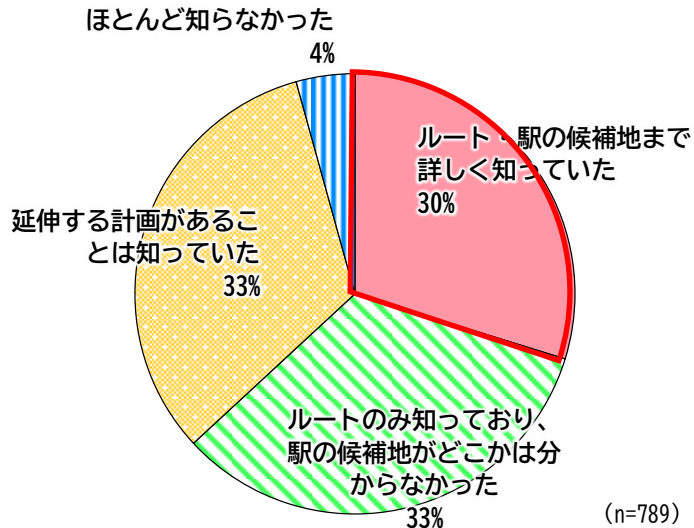


多摩都市モノレールについて

- 多摩都市モノレールの延伸計画は9割以上が認知している
- モノレール利用意向は高く7割以上
- 利用予定の駅は「（仮称）No.3」、「（仮称）No.4」が2割

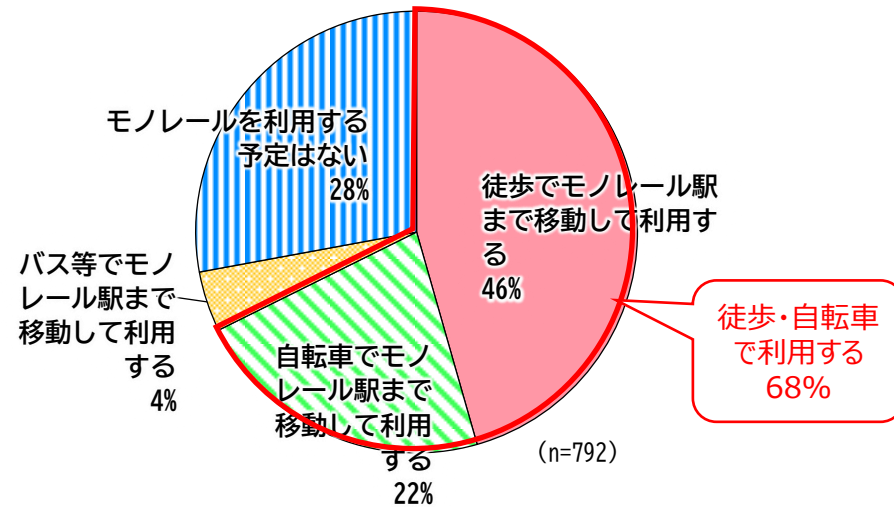
▼多摩都市モノレールの延伸計画の認知度

「ほとんど知らなかった」が4%であり延伸計画はほとんどの方が知っている
「詳しく知っていた」方は30%



▼モノレールの利用意向

「徒歩でモノレール駅まで移動して利用する」が46%
「自転車でモノレール駅まで移動して利用する」は22%、合わせると68%である
「バス等で移動して利用する」が4%



▼利用予定のモノレール駅番号

「（仮称）No.3」、「（仮称）No.4」が21%

